

ショートコメント vol.220 (2021年9月27日)

テーマ：英国、米国のワクチン接種状況の乖離
～両国の政策対応は貴重なケーススタディ～

●感染第5波の沈静化

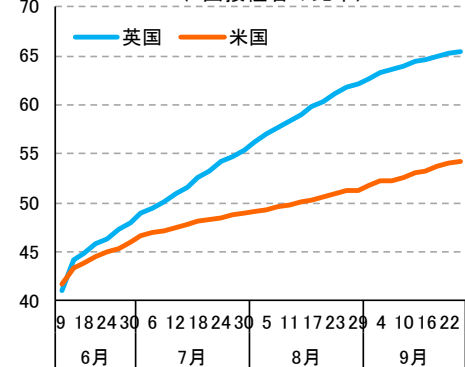
新型コロナの感染状況は、国内では感染第5波の沈静化が進み、各地の緊急事態宣言が月末に解除される可能性が出てきた。

今回の政府判断で注目されるのは、感染状況の判断基準の変化である。これまでは新規感染者数の推移を中心にみてきたが、病床利用率といった医療体制を重視する方向に変化しつつある。ワクチン接種の拡大に伴い、医療体制が逼迫しない範囲において、一定の感染を許容できる状況に変わってきた。

その延長線上に、行動制限の緩和というステップも控えている。すべてのワクチン接種希望者が、11月末には打ち終わる見込みであり、そのタイミングでの行動制限の一部解除が検討されている。

ワクチンの接種が進むことで、いわゆるウィズコロナにおける政策の選択肢が大きく広がってきた。

【図表1】 米国、英国のワクチン接種状況 (2回接種者の比率)



(出所) Our World in Data

●先行する英国と米国の状況

そういった中、海外に目を移すと、ワクチン接種で先行してきた欧米では、経済活動の再開に向けた動きが進んでいる。英国では大半の規制が緩和されたほか、試行的にスポーツイベントなどでの入場制限が解除され、感染拡大への影響が検証されている。これらの結果は、今後の日本の政策判断の参考になるはずである。

そんな中で、米国では段階的な制限解除が進む一方、再び感染拡大への警戒感が広がっている。州によってはマスクの着用を再び義務化するという動きもみられる。

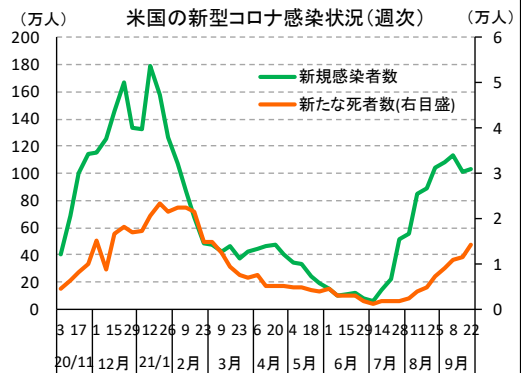
米国と英国の対応に差が出てきた形であるが、注目されるのは、両国のワクチン接種状況の乖離である。

図表1のとおり、英国は2回の接種率がすでに60%を超えているのに対し、米国は55%に満たない。これは日本よりも低い水準である。米国は日本よりもかなり先行している印象であったが、いつの間にか日本が追い抜いた。

●行動制限の部分緩和に向けて

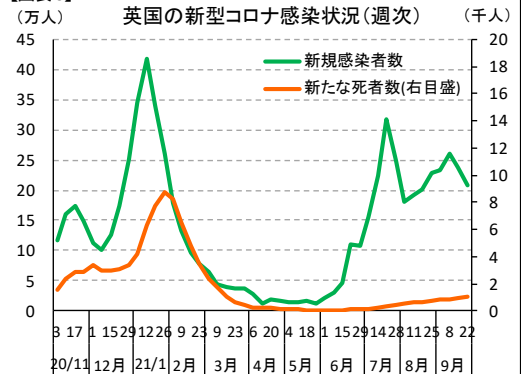
この動きに比例するように、英国と米国とでは感染状況にも差がみられる。図表2、3はそれぞれの新規感染者数と新たな

【図表2】 米国の新型コロナ感染状況(週次)



(出所) WHO「Coronavirus (COVID-19) Dashboard」、以下同じ

【図表3】 英国の新型コロナ感染状況(週次)



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

死者数の推移（週次）であるが、両国での新たな死者数の推移の差は大きい。

行動制限の解除にはワクチン接種率の上昇が条件となる中、上記の状況をみると、米国の水準は不十分であった可能性が高い。ただ、どの程度の水準が適切なのかは明確でなく、判断は非常に難しい。

その点で、現在の英国の取り組みは参考になるはずである。もちろん日本と英国では基本的な事情が異なるものの、島国という地理的な条件も似ており、参考にしない手はない。

そんな中、日本では11月末にはワクチン接種が完了する見込みである。接種率は今の英国を大きく上回る水準となる見込みで、各種制限の部分的な緩和が検討の遡上に上ろう。

制限緩和の内容については、一部では県またぎを伴う旅行の制限緩和を予想する声も上がっている。苦境にあえぐ観光業界に配慮したものとみられるが、感染拡大のリスクもにらみ、まずはエリアを絞った形での解除が妥当といえるのではないか。外食についても、感染対策がきちんと取られた店を緩和の対象とするなど、まずは慎重を期すことが求められる。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。